

クイック・スタート・ガイド

この資料は、DataPower Gateway 仮想エディションを初めて使用するときに役立ちます。

製品の概要

仮想 DataPower® Gateway は、クラウド・プラットフォームにインストールされると、Ubuntu または RHEL 上でアプリケーションとして実行されます。クラウド・プラットフォームに仮想 DataPower Gateway をインストールするには、2 つの Debian パッケージまたは RPM パッケージが必要です。非実動エディションおよび開発者エディションは、テストおよび開発専用です。

1 ステップ 1: ソフトウェアへのアクセス



パッケージを IBM® パスポート・アドバンテージからダウンロードします。以下のコンポーネントが含まれています。

- DataPower Gateway をインストールするためのパッケージ。
 - IBM SoftLayer® 仮想サーバー、Amazon EC2 (Elastic Cloud Compute)、または Microsoft Azure でホストされる Ubuntu 上で DataPower Gateway をアプリケーションとして実行する場合は、Debian パッケージ。
 - IBM SoftLayer 仮想サーバー、または Amazon EC2 でホストされる RHEL 上で DataPower Gateway をアプリケーションとして実行する場合は、RPM パッケージ。
- リソース・キット。
- この PDF 文書。

2 ステップ 2: ハードウェアおよびシステム構成の評価



仮想 DataPower Gateway をインストールするには、以下に示す特定のシステム要件を満たす必要があります。

- オペレーティング・システムで 64 ビット Ubuntu 14.04 LTS または 64 ビット RHEL バージョン 7 アップデート 1 以降が実行されている。
- 最低でも 2 つの仮想プロセッサ (vCPU) と 4 GB RAM で構成されている。
- /opt で 2 GiB のフリー・ストレージが使用可能である。
- /var で 17 GiB のフリー・ストレージが使用可能である。
- 少なくとも 2 つのフリー・ループ・デバイスが必要 (RAID ストレージを使用する場合は追加のループ・デバイスが必要) である。
- RAID ストレージを使用する場合は、区画化せずに、datapower.conf で構成する必要がある。

3 ステップ 3: 仮想 DataPower Gateway をインストールするための準備



インストールする場合、DataPower Gateway のインストール先となるオペレーティング・システムに応じて、2 つの Debian パッケージまたは RPM パッケージ (共通パッケージと仮想エディション製品固有のパッケージ) が必要です。

- xxx.common_amd64.deb または xxx.common.rpm

このパッケージをインストールする必要があります。

- xxx.image_amd64.deb または xxx.image.rpm

以下のいずれかのパッケージをインストールする必要があります。IBM は、仮想エディション製品ごとに 1 つの Debian パッケージと 1 つの RPM パッケージを提供しています。

- xxx.prod.image_amd64.deb または xxx.prod.image.rpm は実動パッケージです。
- xxx.nonprod.image_amd64.deb または xxx.nonprod.image.rpm は非実動パッケージです。
- xxx.dev.image_amd64.deb または xxx.dev.image.rpm は開発者エディション・パッケージです。
- xxx.kernel-build-tool_amd64.deb または xxx.kernel-build-tool.rpm

DataPower Gateway がセルフ・บาลancing・モードでスタンバイ制御をサポートする場合のみ必要で、通常はサポート・システム上でのみ使用します。

4 ステップ 4: 仮想 DataPower Gateway のインストール



Ubuntu の場合

1. root として Ubuntu にログインします。
2. `xxx.common_amd64.deb` ファイルと `xxx.image_amd64.deb` ファイルを Ubuntu 上のターゲット・ディレクトリに転送します。
3. `dpkg -i /full_path/xxx.common_amd64.deb /full_path/xxx.image_amd64.deb` コマンドを使用して、Debian パッケージをインストールします。
4. 依存関係の欠落に関するエラー・メッセージを受け取った場合は、`apt-get -f install` コマンドを使用して修正します。

DataPower Gateway が自動的に始動します。Telnet 接続で、DataPower Gateway のポート 2200 の localhost にアクセスします。初期始動プロセスは、約 5 分かかります。

RHEL の場合

1. root として RHEL にログインします。
2. `xxx.common.rpm` ファイルと `xxx.image.rpm` ファイルを RHEL 上のターゲット・ディレクトリに転送します。
3. `yum install xxx.image.rpm xxx.common.rpm` コマンドを使用して、RPM パッケージをインストールします。
4. `systemctl start datapower` を使用して、仮想 DataPower Gateway を始動します。初期始動プロセスは、約 5 分かかります。
5. Telnet 接続で、`telnet 0 2200` コマンドを使用して DataPower Gateway のポート 2200 の localhost にアクセスします。

5 ステップ 5: 始めに



DataPower Gateway を初期化した後で、Web 管理サービスを構成して DataPower GUI にアクセスし、ご使用条件に同意する必要があります。

仮想 DataPower Gateway を初期化するには、以下の手順を実行します。

1. 「Login: (ログイン:)」プロンプトに、`admin` と入力します。`admin` はローカル・ユーザー・アカウントの名前です。このアカウントの所有者はスーパーユーザーです。
2. 「Password: (パスワード:)」プロンプトに、`admin` と入力します。`admin` は `admin` アカウントのデフォルトのパスワードです。スクリプトは後に、このパスワードを変更するように求めるプロンプトを出します。
3. プロンプトに従って、適切な動作モードを有効にします。
4. DataPower Web 管理インターフェースを構成して GUI にアクセスし、ご使用条件に同意します。コマンドによって、ポート 9090 の Web 管理インターフェースが構成されます。IP アドレスは、クラウド・プロバイダーから受け取った `eth0` のアドレスです。

```
# configure terminal
# web-mgmt
# admin-state enabled
# local-address eth0_ipv4_1
# exit
```

5. GUI にアクセスして、ご使用条件に同意します。Web 管理インターフェースにアクセスするためのアドレスは、HTTPS プロトコルを使用して、`https://address:port` という形式にします。
6. ご使用条件に同意します。

6 ステップ 6: モジュールの管理



実動エディションの場合は、IBM Passport Advantage®でモジュールを購入します。モジュールを購入すると、アクティベーション・ツールとインストール手順を含むパッケージを受け取ります。

非実動エディションと開発者エディションの場合は、無効化ツールを使用して、不要なモジュールを無効にします。このツールは、IBM Fix Central から無償で入手することができます。

詳細情報



詳しくは、IBM Knowledge Center (<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9H2Y>) の IBM DataPower Gateways 資料を参照してください。